

『召しにふさわしく①』

'22/07/17

聖書箇所:エペソ人への手紙 4章 1節(新約 p.377)

皆さんは、あるキリスト教会の牧師が言ったとされる、このような言葉をご存知でしょうか?「日本でクリスチャンが増えないのは、そこにクリスチャンがいるからだ!」…実は、これは、日本に居るクリスチャンたちがしっかりと証しを伴った伝道をしていないということ、日本のクリスチャンがあまりにも聖書の教えを実践していない、ということに対する強烈な非難の言葉なのです。正直、私も初めてこのコメントを聞いた時は、少なからず反発を覚えたものですが…、しかし、冷静になって考えてみると、私自身反省させられることがあったのも事実です。

…と言いますのも、その牧師が言うのには、①日本には平気で罪の中を歩み続けるクリスチャンが多い。②「自分は救われている」と思っているけれども、その実、本当は救われていないクリスチャンが多い。③救われてはいても、クリスチャンとしてどのように生きるべきなのかということをつかかっていない…、また、教わっていないクリスチャンが多い、と言うのです。

命題: 神は、クリスチャンがどのように生きることを願っておられるのでしょうか?

例えば、イエス様は「山上の説教」で、このように教えてくださいました…。マタイ 5:13-16、『13 あなたがたは、地の塩です。もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけです。14 あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません。15 また、あかりをつけて、それを柵の下に置く者はありません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいる人々全部を照らします。16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。』⇒イエス様はこういったことを教えてくださいましたんじゃないでしょうか?「私たちは、ただ言葉でもって福音を語っていくことで伝道すれば良いというのではない。福音を語ると同時に、神を信じるあなたたちの魅力ある生き方が…、神の喜んでくださるような歩みが用いられるべきである!」って…。そうじゃありません?

それと、1ペテロ 3:1-2 に何と書いてあるか、皆さんはよくご存知でしょう…。『1 同じように、妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。たとい、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって、神のものとされるようになるためです。2 それは、あなたがたの、神を恐れかしこむ清い生き方を彼らが見るからです。』⇒これは妻に対する教えですが、それでも、その言わんとしていることは先程と同じです…。私たちの語る言葉以上に、私たちの…、神様を恐れかしこむ生き方の方がむしろ重要なのである、ということのみことばは教えてくれているのです。

「イエス様を信じて救われたら、もう、それで良いんだ! 私たちは神様の一方的な恵みでもって救われたんだから、そのことを感謝して生きていけば良いのであって…、クリスチャンだからこうすべきだとか、救われたんだからこう生きるべきだなんて言うのは、律法的であって…、それは聖書の教えではない!」というのは全く間違った理解です! 間違いなく、天の神様は、私たちクリスチャンが救われる前とは違った生き方を送っていくことを願っておられます。今日からしばらくは、そういったことを皆さんと一緒に確認していきたいと思えます。どうぞ聖書をお持ちでしたら、今日のところは、エペソ 4:1 をお開きください。

●その 必要性 !⇒ 救われた がゆえに…(1節)

ここエペソ 4:1-6 で、パウロは、私たちクリスチャンが身に付けているべき6つの態度について教えてくださいました。しかし、パウロはその前に、**どうして私たちクリスチャンがそのような態度を身に付けているべきなのか? その“必要性”について**教えてくださいました。…今日のところは、1節だけを見ていきましょう。

1 さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。

①それが至極 自然 な反応であるから!

パウロは教えてくれています。「私たちが神様によって救われたが故に、いえ、救われたからこそ、私たちは、神様の喜んでくださるように…、神様の喜んでくださる態度を益々、身に付けていく必要があるんだ!」って…。

ここ1節をご覧くださいと、1番初めに、『さて…』という言葉で始まっています。しかし、ギリシヤ語の語順を見ても、まず1番初めに、「私は勧めます」という動詞があって、その次に、この新改訳では、「さて…」と訳されている接続詞(οὖν)が続いています。この当時のギリシヤ語のルールでは、接続詞は通常2番目に来ることになっていますので、それはそれで良いのですが…、なんだか、『さて…』という風に翻訳されると、そこから全く違う内容の話題が始まるように思いませんか?

実は、ここで使われている接続詞は、それまでと違った…、全く新しい話を始める時に使われるような接続詞で“なくて”、それまでの話を受けて、その話を発展させるような時に用いられる接続詞なのです。ですから、新約聖書の中で、この接続詞と、先程の、「私は勧めます」という動詞がセットになって使われている箇所(παρκαλω οὖν)を探してみますと、やはり、そういった所では、それまでの話を発展させるような形で話が続けられ…、また当然、そのようにも翻訳されているのです。例えば、ローマ 12:1 では、『そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたに願います。…』とありますし、また、1コリント 4:16 では、『ですから、私はあなたがたに勧めます。…』と訳されています。また、1テモテ 2:1 でも、『そこで、まず初めに、このことを勧めます。…』とあって、これらすべては、今日のみことばであるエペソ 4:1 と全く同じ言い回しが使われているのですが、それらは全て、そこまでの話を受けて…、その、当然の結果として話を発展させる場合に、こういった言葉(=表現)が使われてあるのです。

ですから、幾つかの英語訳聖書を見ても、ここは、「therefore」(…それ故に)とか、「then」(それに、それ故に、だから、その上…)というような言葉を使って、この部分を訳しています。つまり、私が言いたいのは、このエペソ書 4章は、決して、パウロが新しい話を“1”から始めようとしているのではなく、1-3章までの教えを受けて、それを発展させようとしている、ということなのです。

そこで、じゃあ、皆さんにお尋ねしたいのですが…、ここ3章まで、どのようなことが教えられていました? ⇒これまで、私たちはエペソ書 1-3章を通して、神様が私たちに与えてくださった恵み…、それはつまり、エペソ 1:3 で言われているところの、『霊的な祝福』について学んで参りました。皆さん、覚えてくださっていますよね。…まず、パウロが教えてくれたのは、私たちの救いという神様の御業です。何と…、神様は、私たちのことを遥か以前から御存知で…、私たちのような者を…、偉大なるみこころの内に選んでおいてくださったというのです! だから、私たちは福音を…、救いのメッセージを聞くことができ…、また、それを信じ受け入れることができたのです! それだけではありません…。そんな私たちを救うために、神のひとり子であられるイエス・キリストが私たちの犯した罪の罰を身代わりを受けてくださって、罪の贖いを成し遂げてくださいました…。そして、私や皆さんが確実に救われたという証拠に、父なる神様は、聖霊なる神様を送ってくださいました。そして、その聖霊なる神様は今、私たちの内に居てください…、私たちに導き…、私たちに強め励ましてくださるのです。私たちがそのような救いをいただくことができたのは、私たちに何らかの功績や理由があったからではありません。ただ、神様の一方的な恵みによるのです。

神様は、私たち人間の犯した罪によって分断されてしまっような…、例えば、国と国、あるいは、民族と民族…、そして、私たち人間同士の争いや仲たがい…、また、私たちの中にある罪との葛藤というようなものに対しても…、神による一致（信仰による解決）という、究極的な解決を与えようとしてくださっております。今、私たちは、神様のなしてくださる一致や平和というものを経験しつつあります。実は今、私たちは、神様の偉大な御計画の中にあるのです。…何故なら、神様は、そういった一致というものを、私たち“教会”を用いることによって実現しようとしてくださっているからです。…と言うのも、今、世界中に点在しているキリスト教会こそ、「生けるキリストのからだ」であるからです。今から 2000 年前に、イエス様が神様のみこころに従って、神様の御計画を成し遂げていかれたように、今、キリストのからだとされた教会が、神様のみこころに従って行くことによって、神様の御計画が今、着々と進められつつあるのです。

だから、パウロも今日のみことばでこう言うのです！ 1 節、『さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。…』⇒実は、こういったような言い方は、エペソ 3:1 でもありました。しかし、強調点が少し違います。エペソ 3:1 では、『こういっわけで、あなたがた異邦人のためにキリスト・イエスの囚人となった私パウロが言います。』とあって、「あなたがた異邦人のために囚人とされた…」ということが強調されています。しかし、ここエペソ 4:1 では、「自分が、主の御計画によって囚人とされている…」ということ、パウロは訴えているのです。つまり、パウロは、ここで、自分自身の証し…、言い換えれば、全てのクリスチャンが模範とすべき考え方を示してくれているのです。

これまでパウロが話してくれていた通り、「神様は、すべてのことに対して、完全で、最善なる御計画を御持ちで…、そのために、自分はローマ帝国の囚人となっている。しかし、自分も含め、それこそが、神様を信じ救われた者が取るべき当然の態度である！」ということ、パウロはここで教えてくれているのです。

だってね、皆さん。前にも言いましたように、「イエス様を信じる」、「救われる」というのは、“この御方を自分の神様として信じ受け入れる、この神様に私は従っていく！”ということであるからです。だから、どうぞ、1 テサロニケ 1:9 をご覧ください。ここで、パウロは救いについて、こんな風に説明してくれています。『あなたがたのようにあなたがたに受け入れられたか、また、あなたがたがどのように偶像から神に立ち返って、生けるまことの神に仕えるようになり、』⇒このように、“信仰を持つ”ということは、言い換えると、「生ける真の神様に仕えるようになる」ということなのです。だから、救われる前までは、良いと思っていたような行為や思いを神様が罪とされるのなら、私たちもそれに同意して、そのことについても悔い改めようとするわけです。それは、ただ単に、神様として、この御方を信じたから…というだけではなく、この御方を自分の主人…、自分が信じ従うべき御方として受け入れたからなのです。

ここ 1 節で、パウロは、『勧めます…』と言って、敢えて、「命じる」というような強い言葉を使っていません。それは、つまり、このエペソ 1-3 章までの内容を、本当に救われた人たちが正しく理解できたら、そこに命令や強制というようなものは必要なくなるからです…。だから、先程言いましたように、パウロは、自然な流れの接続詞…、それまでの話を理解したら、当然、行き着くべき反応を教えるのです。

これと全く同じような話の展開が、例えば、ローマ 12:1 です。『さういっわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。』⇒ここでも、みことばは、私たちクリスチャンが1番に優先すべき礼拝について教えてくれています。ここでも、あえて「命じる！」とは言わないで、「お願いします」と言うわけです。…と言いますのも、このローマ 12:1 に行き着くまでの話の展開、救いの恵みの素晴らしさを本当に気付いた者は、間違いなく…、「この神様を礼拝しよう！この神様のしてくださったことに、私が報いるためにはどうしたら良いだろう？」という風に考えるはずだからです。

良いですか？皆さん！これらの順番は、絶対に逆にはなりません！決してひっくり返ってはならないのです！…つまり、救われたから、救われた者としての歩みをなしていくのです！救われたから、神様に感謝しつつ…、神様に従ってこうとすることです。そうですね？救われるために、クリスチャンらしい歩みをするのではありません。救われるために、神様に従って生きていくのではありません。それらは、所謂、「行ないによる救い」であって、聖書のみことばが明らかに否定しているところですから…。そうでしょ？

② 神様は、救われた者を 用いよう となさっておられるから！

しかし、冒頭でもお話しした通り、聖書のみことばは、『救われたのだったら、もう今後は何をしても良い…』とは教えていません。例えば、ローマ 6:4 をご覧ください、『私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。…』⇒つまりは、最近のメッセージでも見たように、「救われた＝キリストと一体とされた」ということです。そして、その後、その理由（＝目的）について、こう教えてくれます。『…それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあつて新しい歩みをするためです。』⇒このように、私たちが新しい歩み…、新しい目標…、新しい目的をもって生きるように、神様が私たちを救い出してくださったというのです！

だから、例えば、エペソ 2:10 のみことばも、こう教えてくれていますでしょ？『私たちは神の作品であつて、良い行いをするためにキリスト・イエスにあつて造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。』⇒このように、天の神様は、私たちが良い行ない…、つまりは、新しい歩みをするために救い出してくださったわけで、私たちが良い行ないは、してもしなくても良いものではなくて、必ず、救われた者たちは皆、良い行ないに歩まないといけなのです。…ね！皆さん！神様は、皆さんをただ、罪から救い出して…、解放してくださっただけではありません。救われた皆さんを、今度は神様の御業に用いようとなさっておられるのです！

ですから、今日のみことばの 1 節にはこうあります…、『召されたあなたがたは…』って…。神様が、あなたを召し出してくださったのです！神様が、世界の基を置く前からあなたを選び、あなたを神の所有物…、天に国籍を持つ天国民としてくださったのです。ここで、『召された…』と訳されてある言葉(κλήσις)は、「呼ぶこと、招待…」を表わす言葉で、当然、そこには私たちを招待してくださった方の御意志や目的がある！ということ、教えてくれています。だから、例えば、1 テサロニケ 2:11-12 では、こう教えられています。『11 また、ご承知のとおり、私たちは父がその子どもに対してするように、あなたがたひとりひとりに、12 ご自身の御国と栄光とに召して下さる神にふさわしく歩むように勧めをし、慰めを与え、おごそかに命じました。』⇒ここでも、みことばが教えるのは、私たちを召してくださった神様にふさわしく生きていきなさいということです。

だから、1 ペテロ 1:15-16 のみことばは、こう教えます、『15 あなたがたを召して下さった聖なる方にならつて、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なるものとされなさい。16 それは、「わたしが聖であるから、あなたがたも、聖でなければならぬ」と書いてあるからです。』⇒このように、旧約聖書も、新約聖書も一貫して教えるのは、救われた私たちには神様に倣うという責任がある、ということです。だって、つい最近も、私たちが学んだように、イエス様を信じた私たちクリスチャンには、どんなことが起こりますか？⇒①聖霊なる神様が私たちの内に住んでくださって…、それだけじゃない。②私たちの主であられるイエス様の人格が私たちの中に構成され…、それが益々、私たちをキリストに似た者へと変えていってくださるわけでしょ！だから、私たちが救われたら変えられていくのです。「イエス様を信じて救われたら、もう、それで良いんだ！…クリスチャンだからこうすべきだとか、救われたんだったらこう生きるべきだなんて律法的だ。」と言うのは甚だ見当違いで、救われたら…、そのように変えられていくはずで…、逆にそうならぬとおかしいのです。だって、神様が救われた人をそのように変えていってくださるのですから…。そうじゃありません？

よく言われることですが、「教会」のことを、新約聖書では、ギリシャ語の「ἐκκλησία」(エックレーシア)という単語で表現します。これは合成語で、「～から(中から外へ)」(ἐκ)という意味の前置詞と、「呼ぶ」(καλέω)という動詞が合わさってきた合成語で、「召し出された者たち」という意味です。元々、この言葉は、教会だけを指した言葉ではなく、市民から選出された議会のことなども指すことがありました。救われて…、ここにおられる皆さんは、神様によって、この世から召し集められた者たちの団体なのです。

その教会が…、神様によって選り分けられて…、集められた者たちが、神様のみこころに沿った歩みをしていないはずがないですよね？もちろん、私たちとは違って…、神様はすべての点で完全であられます。…ですから、救われたとは言っても、まだ、罪を持っている私たち人間が完全な歩みなどできるはずがありません。しかし、少なくとも、私たち教会は…、救われたクリスチャンとして、神様のみこころというものに対して、全く無関心であるというのは、おかしいということに皆さんも同意して下さると思います。

良いですか、クリスチャンの皆さん…。皆さんが、神様によって救われたのには、ちゃんとした目的があるのです！そのために、あなたは救われ…、今も生かされているのです！もちろん、ここにおられる皆さんに対する神様のみこころというものは一人ひとり違う部分もあるでしょうが、…でも、その究極的な目的は同じです。I コリント 6:19-20 には何と教えられていましたか？『19 あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。20 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現しなさい。』⇒このように、イエス様を信じて救われた皆さんのからだは、もはや、皆さんのものではないのです！皆さんを買い取って下さった神様のものなのです！だから、私や皆さんには、自分のことを救い出してくださった神の栄光を現わしていくという責任が与えられているのです。

例えば、神様のみこころということに関して、I テサロニケ 4:3-6 のみことばは、こう教えてくれています。『3 神のみこころは、あなたがたが聖くなることです。あなたがたが不品行を避け、4 各自わきまえて、自分のからだを、聖く、また尊く保ち、5 神を知らない異邦人のように情欲におぼれず、6 また、このようなことで、兄弟を踏みつけたり、欺いたりしないことです。…』⇒神様は、ここにおられるクリスチャンの方々が、益々、神のみこころに沿って歩んでいかれることを願っておられます。ここで、『神を知らない異邦人のように情欲におぼれず…』とあるように、イエス様を信じる前の生活…、特に、罪に対しては、しっかりと距離をとって歩んでいかれることです。そのために…、神様は、皆さんを救って下さったのです。

③救われた者は神を愛し、神に従おうとするから！

今日のみことばである 1 節の最後、『…召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。』とあります…。もし、これが、「召されたあなたがたは、召されていないかのように歩みなさい」と教えられていたら、皆さんはどのようにお感じになりますか？⇒明らかに、おかしいでしょ！また、逆に、「召されていない者でも、召されたかのように歩みなさい」と教えられていても、明らかにおかしいですよね。…そう考えると、この…、『…召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。』という教えは、ごく自然な、実に当たり前のことであるというのは言うまでもありません。何度も言いますが、「召されるために…、救われるために、良い行ないをしなさい」ということではありません！救われたから…、神によって召されたから…、その召しにふさわしく歩もうとするのです。

ちょっと、皆さん。I ヨハネ 3:7-9 をご覧ください。『7 子どもたちよ。だれにも惑わされてはいけません。義を行う者は、キリストが正しくあられるのと同じように正しいのです。8 罪を犯している者は、悪魔から

出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。神の子が現れたのは、悪魔のしわざを打ちこわすためです。9 だれでも神から生まれた者は、罪を犯しません。なぜなら、神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。』⇒ここでもはっきりと教えられていることは、イエス様を信じ、救われたら、その人は神様によって変えられたのだから、『罪のうちは歩むことができない…』ということですよ。

ここで皆さんにお尋ねしたいのですが、皆さんは、平気で罪を犯し続けることができます？例えば、「このことは、明らかに、神様のみこころではない！」…罪に間違いないことを、平気で、犯し続けることができます？それも、何の責めも感じることなく…。つまり、あの、ローマ 6:1b で教えられているような、「私たちが罪を犯せば犯すほど、それを赦してくださる神様の恵みは偉大である！…だから、その恵みが増し加わるために、私たちはもっと罪の中にとどまりましょう！」なんて、思われますか？絶対にそんなことはありませんよね！パウロも、その後で教えてくれているように、『2 …罪に対して死んだ私たちが、どうして、なおもその中に生きていられるでしょう。3 それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたではありませんか。』(ローマ 6:2b-3)とあるように、神様によって、新しく変えられた私たちは、もはや、救われる前の私たちとは変わってしまっているのです！

だって、II コリント 5:17 では、こうあるじゃないですか！『だれでもキリストのうちにある(＝本当に救われている)なら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。』⇒クリスチャンの皆さんは、神様によって、新しく造られたのです！新しく生まれ変わらせられたのです！…だから、もしも皆さんが救われる前の生活…、救われる前の生き方をしていることとする時、皆さんの心の中には、必ず、神様からの責めがあるはずだし、かつての…、快楽から来るような喜びや居心地の良さがもう、以前と同じようには感じられないはずなのです。

<励ましの言葉>

イエス様を信じて救われた者は、神様を愛する者です。そう、ヨハネは教えていますよね。I ヨハネ 4:7 に、『…愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。』と教えられている通りです。だから、救われた者は皆、神を愛するのです。その少し後、I ヨハネ 5:3にはこうあります。『神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。』⇒このように、イエス様を信じて救われた者は、神を愛するがゆえに、神様の命令に対して…、神様のみこころに対して、決して無関心ではおられないのです。

だから、救われたクリスチャンは皆、神のみことばである聖書を学ぼうとするのです。でも、私たちが、みことばである聖書を学ぶと、必ず、そこにはたくさんの命令が出てきます。「～しなさい」とか、「～してはなりません」、「～であるべきです」って…。しかし、私たちクリスチャンが、そうやって、みことばを学ぼうとするのは、それこそが神のみこころであり、神の願っておられることだからですよ！私たちクリスチャンは、神様の御声を聞きたいし、そういった神のみこころに聞き従っていききたいのです！

それこそが、イエス様を信じて救われたクリスチャンの特徴です…。だって、イエス様を信じていない人の誰が、神様のみこころに従おうとするのですか？誰が信じてもない神様の命令を守ろうとし…、誰が受け入れてもない神様を喜ばせようとするのでしょうか？もし、皆さんが、神様のみこころを求めようと…、それが皆さんの願いと一見違っていても、喜んで神様のみこころに従おうとしておられるのなら…、それはその人が神様を信じ、救われている証拠ではないでしょうか？神様の命令を守るために必要なものは、まず第1に、信仰と悔い改めです。それなしに、神様に喜ばれることは決してありません…。

今日から、私たちはエペソ書の後半を学んでいきます。すると、そこには、たくさんの「～しなさい」とか、「～してはなりません」、「～であるべき」といったような教えが出てきます。しかし、それは、勿論、私の考えではありません。すべてを造られた神様の教えであり、神様の願いなのです。これは、所謂、律法主義などではありません。それは、神様の恵みであり…、神様の愛でもあり、神様が救われた皆さんに対して願っておられることなのです。だって、あなたが神様によって救われたから、神様を愛し…、神様に従っていきたいと願う者へと変えられたからです。…そうして、何より、神様があなたと共に居てくださって、あなたを導き、あなたを助けてくださるのです。最後に、神様の御働きに期待してお祈りいたしましょう。